

第3章 災害が予想されるときへの対応 (台風、大雨等による風水害)

目 標

- 台風・大雨等による風水害が予想される時、在宅人工呼吸器使用者・家族及び関係者が、必要な情報を速やかに入手し、災害時個別支援計画に沿った事前対応を取ることができる。
- 在宅人工呼吸器使用者・家族及び関係者が、事後に今回の対応について検証し、必要があれば災害時個別支援計画を見直すとともに、事前対応の重要性を共有することができる。

取組内容

- | | | |
|---|---|-------|
| 1 | 情報収集 | 30ページ |
| | 【在宅人工呼吸器使用者・家族、全ての関係機関】 | |
| 2 | 災害時個別支援計画に沿った対応の確認 | 31ページ |
| | 【在宅人工呼吸器使用者・家族、区市町村（支援窓口、障害・高齢者等福祉担当部署、保健担当部署）、医療機関及び訪問看護ステーション等】 | |
| 3 | 災害時個別支援計画に沿った行動が起こせたかの検証 | 32ページ |
| | 【在宅人工呼吸器使用者・家族、全ての関係機関】 | |

1 情報収集

【在宅人工呼吸器使用者・家族、全ての関係機関】

在宅人工呼吸器使用者・家族は、災害時個別支援計画で定めておいた方法で、気象情報、避難情報等を確認します。

関係者は、在宅人工呼吸器使用者・家族が情報を入手できる状況かどうかを確認します。

2 災害時個別支援計画に沿った対応の確認

【在宅人工呼吸器使用者・家族、区市町村（支援窓口、障害・高齢者等福祉担当部署、保健担当部署）、医療機関及び訪問看護ステーション等】

防災気象情報を確認し、避難が必要な状況であると判断された場合、災害時個別支援計画に沿って避難できるよう支援する必要があります（風水害時の対応については第2章を参照）。

計画どおりに避難行動がとれない要因として①情報を入手できていない、②情報は入手できたが避難行動を起こす決断ができない、③想定していた搬送手段が確保できない、④避難先のいずれも受入れが困難等が考えられます。

そのため、計画に沿った対応ができていないか確認し、できていない場合は、その原因に応じ支援方策を取る必要があります。

また、停電に備えて医療機器等が充電されているか確認し、フル充電しておくように促します。

<想定される問題と支援方策の一例>

情報が入手できていない	区市町村（支援窓口等）が入手している情報を伝え、在宅人工呼吸器使用者・家族自身でも区市町村のホームページや防災行政無線、テレビ・ラジオ等により気象情報や避難情報を確認し、災害時個別支援計画に基づいた行動を取るよう促す。
情報は入手できたが決断できない	風雨が強くなると移動が困難となるため、速やかに災害時個別支援計画に基づいた行動をとるよう強く助言する。それでも、在宅人工呼吸器使用者・家族が決断できない場合は、長期間にわたる浸水や停電の可能性があることなどを伝える。気象情報や避難情報を確認し、屋外の避難先に移動することがかえって命に危険が及ぶ場合は、屋内の2・3階以上のより安全な場所（土砂災害が想定される地域は、2・3階以上の崖からできるだけ離れた居室など）への垂直避難など、命を守る最善の行動をとるよう伝え、関係機関に対応の変更について連絡する。
想定していた搬送手段が確保できない	他の代替手段を検討する。
避難先のいずれも受入れが困難	状況を説明して支援窓口等に相談する。

3 災害時個別支援計画に沿った行動が起こせたかの検証

【在宅人工呼吸器使用者・家族、全ての関係機関】

事前の避難行動をした後、実際に災害が発生した場合は、「第4章 災害発生時の対応」をとることになりますが、災害が発生しなかった場合についても、在宅療養生活への復帰支援、実施した対応の検証を行います。

(1) 在宅療養生活への復帰支援

避難先から自宅へ戻る場合は、必要に応じて在宅人工呼吸器使用者・家族と関係者が連携しながら在宅療養生活への復帰に向けて調整を行います。関係者は在宅人工呼吸器使用者・家族の状況と訪問診療や訪問看護、各種サービス等の再開可能日を調整したうえで帰宅できるよう支援します。

(2) 対応の検証

「災害時個別支援計画」に問題はなかったか確認し、問題があれば再度、在宅人工呼吸器使用者・家族及び関係者で検討し、計画の内容を見直します。

また、事前の避難行動が結果的に空振りに終わっても、在宅人工呼吸器使用者・家族及び関係者で行動ができたことを評価し、対応の検証を行い、次の災害への備えにつなげることが重要です。